

陸自HPに沖縄戦司令官辞世の句

住民巻き添えの戦闘を美化

那覇市に駐屯地がある陸
上自衛隊第15旅団がホーム
ページに太平洋戦争末期の

沖縄戦の旧日本軍司令官の
辞世の句（自決前に詠む短
歌）を掲載していることが
わかりました。多数の県民
を巻き添えにした沖縄戦を
美化するもので、沖縄戦の
悲惨さへの理解が疑われま
す。

までの時間稼ぎを企図した
ものとされます。
牛島司令官が自決した同
年6月23日が沖縄戦の終結
とされていますが、牛島司
令官が自決前に出した徹底
抗戦の命令に従い、その後
も戦闘を続け、犠牲者を出
し続けた地域があります。

3日付の琉球新報が報じ
ました。15旅団のホームペ
ージに、旧日本軍第32軍の
牛島満司令官の「秋待たで
枯れ行く島の 青草は
皇国の春に 甦らなむ」と
する辞世の句を大きく掲載
しています。

ます。訓示は沖縄県が19
72年に日本に復帰した際
のもの。「沖縄作戦におい
て風土・郷土防衛のため散
華された軍官民20余万の英
霊に対し、この決意を誓う
とともに御霊安かれと祈念
する次第である」として、
沖縄戦の住民も含めた犠牲
者を「散華（花びらが散る
ように美しく死ぬこと）」
「英霊」としています。ど
ちらも、靖国神社など戦前
の天皇制政府と旧日本軍が
戦没した軍人らを美化する
ために用いた呼び方です。

沖繩戦は1945年3月
末から米軍が慶良間諸島や
沖繩本島に相次いで上陸
し、3カ月以上にわたり住
民を巻き込んだ地上戦で
す。旧日本軍が、本土決戦

「鉄の暴風」と呼ばれるほ
どの米軍の猛攻でした。第
15旅団は今なお、沖縄県内
に残る当時の不発弾処理を
担っています。

また第15旅団のホームペ
ージには、同旅団の前身で
ある陸自臨時第1混成群の
初代群長の訓示を載せてい

自衛隊幹部らの靖国神社
集団参拝など、旧日本軍へ
の回帰意識の強まりをうか
がわせる事態が相次いでい
ます。

牛島軍司令官辞世

秋待たで 枯れ行く島の 青草は
皇国の春に 甦らなむ

昭和47年5月15日

1等陸佐

桑江 良逢

最後に、沖縄作戦において風土・郷土防衛のため散華された軍官民20余万の英霊に対し、この決意を誓うとともに御霊安かれと祈念する次第である。

旧日本軍の沖縄戦の牛島司令官
の辞世の句と、沖縄戦の犠牲者
を「散華」「英霊」と記述した陸
自第15旅団のホームページ